

マニトバ日本文化協会

ホライゾンクラブニュース

夏休みの後九月七日からいつものように水曜日に集まってタイチ、トランプ、ランチを楽しんでいます。

秋分の日日は日本では休日。その日にちなみ当クラブでは紅葉マーケットを開きました。ランチの後で会員がそれぞれ持ち寄った家の畑や自家製のもの、ビール、リーク、ルバーブ、ジャガイモ、いんげん、ピクルス、ベーキング、はちみつ、パン、から揚げ、おにぎりなどなど、まさに色とりどりでした。

このマーケットの利益はセンターのすしルーム、疲れを和らげるマットの購入に当てることとなります。このイベントはとても楽しく、コミュニティ内で恵みを分かち合えたことが成功につながり良かったです。

持ち寄って下さった方、買って下さった方々、ありがとうございました。

年次総会は十一月二日に催され、条約への修正が発表され、受理されました。役員は二人が辞任、他はこれまでと同じく、マリーリン森が会長を務めます。

寄付感謝

ジム谷口 あさこ谷口への追悼
ミッキー小島 リンゼイへの追悼
モナ・ビーバート 誕生祝

新年会は

二〇一七年一月十四、土曜日
正午から です。

会員にはメールまたは電話で数週間前にお知らせが行きます。

なお、十二月、一月の水曜日の集まりはお休みとなり、二月一日より再開します。

喜びと愛にあふれたクリスマスと、二〇一七年が平和に満ちたものとなりますように。良いお年をお迎えください。

どんぶりランチ二〇一七年

正午から2時まで

一月	十三日、二十七日
二月	十日、二十四日
三月	十日、二十四日
四月	七日、二十一日

どんぶりランチはウイにベグではお値段も手ごろで、ベストランチと人気があります。長年経験済みのボランティアによって作られています。チョイスも多く、週替わりメニューも出ています。海老天どん、野菜天どん、すし詰弁当、その他に自家製さつま揚げ、酢の物、みそ汁、緑茶、野菜てんぷらなど盛りだくさんです。

六人以上のお客様は予約を入れてください。テイクアウトにはお電話で。八名以上のご注文には五千円以内であればデリバリーも致します。

アート三木氏旭日章受章

十一月三日、日本政府は旭日章の外国人受章者の一人としてJCAM会長、NAJC前会長のアート三木氏と発表しました。

三木氏が全カナダ日系人協会会長として世界第二次大戦中にカナダ政府によって日系カナダ人が収容キャンプに送られたことに対する補償をめぐる交渉し成功を収め、一九八八年補償設定協定を当時のカナダ首相、ブライアン・マルローニと署名したこと。更にその後マニトバ州において日本文化の発展に貢献したことなどが受章の理由にあげられます。

旭日章は一八七五年に明治天皇によって創立され国際関係、日本文化の促進、各分野における向上環境保護などに貢献した人に授与されます。

その他詳細は吉岡副領事、403・294・0782ext.102Xに

yuzoyoshika@mofa.go.jp

までお問合せください。

フオークロフマ報告

二〇一六年会計報告

収入	50787	ドル
支出		
売上原価	14272	
運営費	21893	
剰余金	14622	

再びフオークロフマ二〇一七年に向けて左記のボランティアを募っています。

クリンナップ、エンターテイメント、食べ物、かき氷、設置・解体、スポンサーシップ、ボランティアなど。関心のある方はセンターに連絡し、お名前とEメールアドレスを残してください。

又、ユース・アンバサダー、成人アンバサダー、それにユースメンターシップ申込者を募集しています。

申込書はセンターでお求めください。これらの締切日は二〇一七年二月一七日、金曜日です。日本館を代表したり、日本館の中で手伝ったり、学びたかったりを希望する方は一報ください。

マニトバ剣道クラブ

稽古スケジュール

日曜日	正午から1時半	中級、上級
	1時半から3時	初級
	3時から4時	居合道
水曜日	7時半から9時	全員
金曜日	7時半から9時	中級、上級

その他詳細はウェブサイトをご覧ください。

Manitobakendoclub.com

二〇一八年はカナダ剣道協会に入会してより50年目を迎えます。剣道クラブの過去の写真をお持ちでしたらコピーを送って頂けないでしょうか。クラブの歴史の本を作りたいと思っています。よろしく願いいたします。

JCAMキャピタル・ファンド キャンペーン報告

キャンペーンはJCAMキャピタル基金に15万ドル以上の資金を集め、これはコミュニティ内の皆様の寛大なる寄付のおかげと心から感謝申し上げます。

最初の玄関増築の段階は終了しましたが、センターを維持するためには更なる改善、修復工事が必要です。このセンター更新に際し、コミュニティから引き続き支援をお願いしています。

JCAM役員会では全体を見ないであちらこちらを修復するよりも建築家に施設を見てもらい、全体的な修復計画を立ててもらうことが必要だと合意しました。建築家のコリン・リードがセンターを見て建築規約を考慮し、現存のスペースを有効に使うためにそのスペースをどう変えるかを含み推薦と共に青写真を役員会に提供しました。

ビジョン20・20委員会はこの推薦を評価し、実行可能性を計り、役員会に推薦レポートを提出する予定です。多くはどれだけの資金があつまるかにかかっています。

しかしながら、あちこちに修復の必要が迫っています。優先しなければならぬ所をあげます。

- ・ 日本庭園の開発と庭園の美を高める塀
- ・ キッチン
- ・ メインホール、廊下の床
- ・ 洗面所
- ・ ライトシステム
- ・ パーキングエリア

キャピタル基金はこれらの場所の改善のために使われます。寄贈者が右記の中の特定の場所を望みであればそのようにできます。250ドル以上の寄贈者は玄関の寄贈者リストに載ります。センターの必要な改善にはコミュニティ内の皆様からのご協力が必須です。金額は要因ではありません。重要なのはコミュニティ内の一人一人が

このキャンペーンに参加し、将来の子供たちのために遺産を残すことです。
寄贈者リストは英文アウトLOOKをご覧ください。

パブリック・スクール・プログラム

当プログラムの予約は満杯です。つまり約1230名の生徒がセンターを訪れ、日本文化について学ぶことになりました。一人の生徒につき五ドルで課外クラスが持て、先生方のお気に入ります。

もちろん多くのボランティアの支援があれば当プログラムは成り立ちません。

さてこのプログラムの設立に尽力したノブ・エリスさんが今年九月三〇日に亡くなりました。彼女を偲んで開始当時を振り返ってみましょう。

まだセンターがローガンにあった頃、ノブとコン・松尾の協力でパブリック・スクール・プログラムが始まりました。ノブは組織、企画、そして細部への配慮が得意であったことから、各セッションの時間割を決めました。そして市内の小学校にこのプログラムの存在を知らせる手紙を出し予約を入れることを勧め、予約受付の日時を知らせる手紙を送ることを自分の責任としたのです。ノブとご主人のケンがプログラムに必要な全ての材料を購入し、その財務を事細かに記しました。

素晴らしいプログラムの存在は瞬く間に知れ渡り何年もの間、予約はいつもフルで、多くの学校から待ちリストに加えてほしいとの要請がありました。創始以来30年経つ今でも訪問した学校の先生方からは良く編成された教育的なプログラムとの高い評価を得ています。そして先生にも生徒にも楽しんでもらっているようです。

私たちはこのような文化的、教育的なプログラムを作ったノブさんのビジョンに敬意を表し感謝を捧げます。

マニトバ短歌会 十二月作品

吹き溜まる落葉の中の楓葉の
奈津

黄金に染まりし一葉を拾ふ
波留

ペチュニアの枯れて木枯吹く庭に
波留

はるばると船旅したる小包を
波留

開けば日本の香りひろがる
波留

戦中派もつたいないが身にしてみても
波留

物も気持ちももてあましをり
波留

裏庭のバルコニーにて友の焼く
亜紀

秋刀魚のけむりたちこむる夕
亜紀

焼きたてのさんまに大根おろしそへ
亜紀

異国に味はふ和食のめぐみ
羽瑠

真上向き木漏れ日多く受けている
羽瑠

長月に咲く小さき向日葵
羽瑠

やうやくに寝息がすれば部屋を出て
羽瑠

ココア淹れたり秋の夜長に
葉流

我が姉の手塩に掛けし鉄線の
葉流

濃い紫が曇天を指す
葉流

バンクバーの並木をぼつと煙らせて
葉流

寒桜咲く霜月末に
葉流

二〇一七年

ムービー&弁当ナイトへのご案内

「海は見ていた」

日 一月二十一日、土曜日
時 オープン午後五時
放映 午後六時
所 マニトバ日系センター

二月二十五日、土曜日にムービー&弁当ナイトを再開します。まだ 映画のタイトルは決まっていますが追ってお知らせします。

二〇一六年ギャラディナー

二〇一六年はマニトバ日系文化センターの創立以来三十年になります。また今年は玄関の増築、それに改善改修の時でもあり、これを記してギャラディナーのテーマを「バック・ツリー・ザ・ヒューチャー、未来へ遡り」としました。

先ずは州議会からアンドルー・スミス議員とJCAM会長のアート三木の挨拶がありました。食事は

大野貞夫シェフによる6コースディナー。食事の間には歌や踊りのエンターテイメント。田元千代子さんが古き良き時代の歌を、まがらかず

こさんが新しい時代の歌を歌いました。

またジェッシーマンによるライブ・オークションもあり、彼の話芸は大いに観客を沸かせ、値段を釣り上げたようです。大野シェフによる5コースディナーのオークションはこれまでにない高値になりました。

このイベントのハイライトはホライゾンクラブ会員への認識で、ホライゾンクラブの組織が土台にあったからこの文化センターがあるのです。

一九八一年、日系コミュニティのシニアがシニアクラブを始めました。一九八二年にはMJCCAアマニトバ日系人協会の支援でクラブは役員を選んで創立しました。シニアクラブは数年後ホライゾンクラブと進化し、自分たちが一同に集まれる場所がほしいと夢を持つようになったのです。

そしてMJCCAに辛抱強く働きかけ、一九八六年にようやく936ローガンアベニューにビルをMJCCAと共同で購入したのです。そしてシニアの働きはもちろん、コミュニティ内の尽力で会員の増加と共にセンターのプログラムは発展し更に大きい場所が必要となり、一九九三年現在のセンターの購入へと至ったのです。

二〇一三年にはMJCCA日系人協会と日系センターが合併し、JCAMと進化しました。と言う訳で、ホライゾンクラブの土台なくしては今のセンターの存在はありません。

ヘンリー小島がその当時役員で当時のことを話しました。第二次世界大戦で収容キャンプに耐え、戦後の苦難をくぐり抜けて来たこれらのシニアは自分達の集まる場所を得るためにはいかなる障害も物ともしなかったと言っていました。

JCAM会長アート三木が一九八六年ホライゾンクラブ役員の唯一の生存者、イザベル広田さんに記念額を渡し、それには「MJCCAホライゾンクラブ会員の日系文化センターの設立におけるリーダーシップと先見の明に捧げる。未来図が現実になるための努力を通して」と書かれる予定。

これに対して広田さんは驚くような話術で昔のことや亡くなった友人達のことを話しました。彼女は百一歳ということですが、頭はまだまだ切れそうです。スピーチの後には出席者総立ちで拍手が鳴りやみませんでした。

現在のホライゾンクラブは会長をマリーリン森が勤め、シニアの集まりを持続しています。

今年初めてことぶきスポンサーが加わりました。2537ペンビナのフロンティアスバル社です。その他多くのスポンサー、寄贈者に感謝申し上げます。

スポンサー、寄贈者リストは英文アウトトルックに掲載されています。ご参照ください。

なお、グレン古賀によるこのイベントのアルバムがセンターに残されています。センターにお寄りの際はご覧ください。またいくつかの写真は英文アウトトルックにも掲載されています。

日本食品

納豆、かまぼこ、ラッキョウ、紅シヨウガ冷凍マグロ、いなり寿司袋、あられなどがクリスマス、お正月に向けて入荷しました。ご利用ください。

玄関増築正式オープニング

十二月四日、百名ほどが玄関増築の正式オープニングに集まり、大野シェフのランチ弁当の後、寄贈者リストの壁の除幕式が行われました。リストには今回だけではなく、この施設を購入した当時の寄贈者も含まれます。JCAM会長アート三木は最高額寄贈のフランク森基金、ウイニベグ基金、連邦、州政府からの支援、建築家グラント・ラボシエーとトラクタスプロジェクト工事に感謝を述べました。

ヘンリー小島は今後のセンターの改善修復を控え、更なる支援を奨励しました。

JCAM行事

十二月
十六日 オタワの日本大使館より訪問
二十四日、二十六日、三十一日、一月二日は休館
一月

七日 日本語学校開校
八日 お正月オープンハウス
十日 大人の日本語クラス開始
十三日 どんぶりランチ
十四日 高校クラス開始
十四日 ホライゾン新年会
十五日 JCAM役員会
二十一日映画と弁当ナイト
二十七日 どんぶりランチ

編集部より

JCAMへの寄贈者リスト、その他写真などは英文アウトトルックをご参照下さい。